

ジェネリック医薬品の配合薬の名称

患者さんのコンプライアンスの確保を目的としたり、企業側としてはジェネリック薬対策として配合剤化を進めたりしていましたが、その先発薬配合薬自体のジェネリック医薬品も発売されてきました。

しかし一般のジェネリック薬と同じように配合剤名が「**一般名＋一般名**」だと長くなり過ぎますし、各メーカーがてんでに商品名をつけたのでは、かつてのように医療現場に混乱を生じさせかねません。

そこで日本ジェネリック医薬品学会は配合薬の名称の統一化をはかり「**統一ブランド名称**」＋「**剤型**」＋「**屋号**」という形式で販売できるようにしました。2013年8月に最初に発売されたものがロサルヒド配合錠になります。

同年6月に発売された抗がん剤「ティーエスワン配合カプセル」のジェネリック薬は残念ながら統一ブランド化前の段階でしたので、先発薬名称に似せてはいますが複数の異なる名称になっています。

名前の構成については、もとの成分同士を組み合わせたものや、先発薬の名称を組み合わせたものなどいろいろな形式があるようです。下表には、ゴシック体と下線部の組合せでジェネリック医薬品の配合薬名になるのではないかという私なり解釈を示しています。そのため正確ではないかもしれませんが、これまで発売されている配合薬についてまとめてみました（発売年順）。

後発配合薬名	①先発配合薬名	②成分1	③成分2	名称組合せ
ロサルヒド	プレミネント	<u>ロサル</u> タン	<u>ヒド</u> ロクロロチアジド	②＋③
アムパロ	エックスフォージ	<u>アム</u> ロジピン	<u>バル</u> サルタン	②＋③
バルヒディオ	コ <u>ディオ</u>	<u>バル</u> サルタン	<u>ヒド</u> ロクロロチアジド	②＋③＋①
アマルエット	カデュ <u>エット</u>	<u>アム</u> ロジピン	<u>アトル</u> バスタチン	②＋③＋①
タゾピペ	ゾシン注射	<u>タゾ</u> バクタム	<u>ピペ</u> ラシリン	②＋③
カムシア	ユニ <u>シア</u>	<u>カン</u> デサルタン	<u>アム</u> ロジピン	②＋③＋①
テラムロ	ミカムロ	<u>テル</u> ミサルタン	<u>アム</u> ロジピン	②＋③
テルチア	ミコンビ	<u>テル</u> ミサルタン	ヒドロクロロ <u>チア</u> ジド	②＋③
カデチア	エカード	<u>カン</u> <u>デ</u> サルタン	ヒドロクロロ <u>チア</u> ジド	②＋③
イルアミクス	アイ <u>ミクス</u>	<u>イル</u> ベサルタン	<u>アム</u> ロジピン	②＋③＋①
フリウェル	ルナベル	ノルエチステロン	エチルエストラジオール	※
ラタチモ	ザラカム点眼	<u>ラタ</u> ノプロスト	<u>チモ</u> ロール	②＋③
ドルモロール	コソプト点眼	<u>ドル</u> ゾラミド	<u>チモ</u> ロール	②＋③

※月経困難症の痛みから解放(**Free**)され、良くなる(**Well**)という意味から来た造語で、従来の先発薬名称の名づけ方と同じ形式。

先発薬の配合錠があるかぎり、今後ともジェネリック薬の配合錠も出てくるでしょう。調剤する側の安全性も考慮してもらいできるだけ成分を類推できる配合薬名称にしてもらいたいものです。